

中途視覚障害者への点字指導

七沢自立支援ホーム 矢部 健三

2024年3月12日

僕のプロフィール

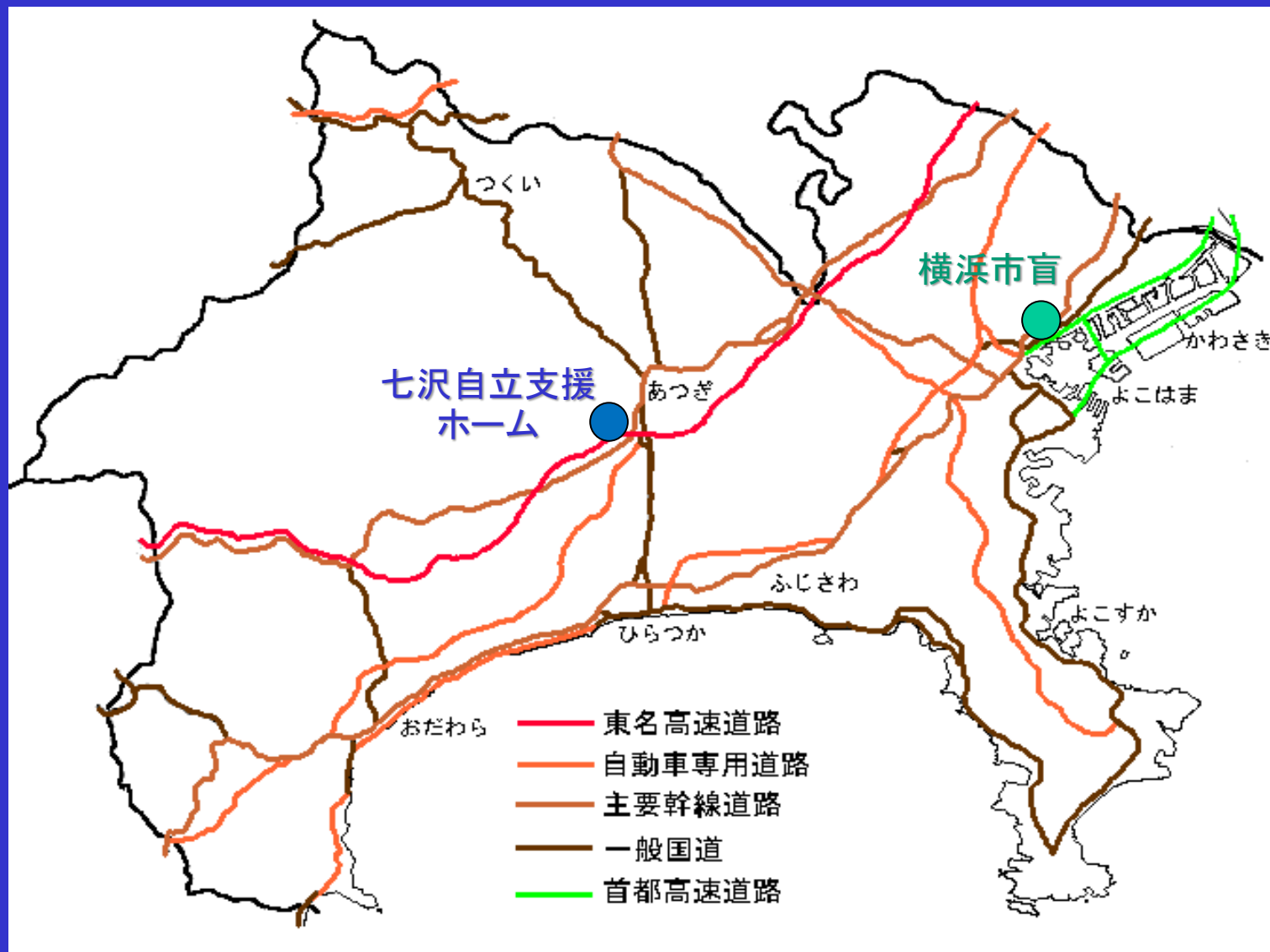
- 13歳で失明し、
横浜市盲に転校
- 全盲で初めて県立普通
高校に進学
- 大卒後、七沢自立支援
ホーム勤務
- 点字・ICT等訓練と
生活支援を担当
- 趣味はスキー



今日の内容

- 七沢自立支援ホームのご紹介
- 点字指導法のいろいろ
- 点字読み訓練プログラム
- 中途視覚障害点字学習者の事例
- 点訳者に望むこと

七沢自立支援ホームはどこにある？



七沢自立支援ホーム視覚部門の ご紹介

- 18歳以上の視覚障害者が対象
- 総合的な自立訓練を提供
- 利用者個々のニーズに対応
- 利用形態は入所・通所・訪問
- 利用期間は3か月～1年半
- 定員は機能訓練18名、入所支援10名

支援の目的

- 目的:

- 社会参加と自立に必要な

- 知識・技能の習得

- 社会的環境調整

支援の内容①

- 内容:

- 生活支援(進路・生活相談、家族支援など)
- 感覚(諸感覚の活用訓練、スポーツなど)
- 歩行(屋内移動、白杖操作、屋外移動など)
- コミュニケーション(点字、ICT、録音図書など)
- 日常生活(身辺処理、家事動作など)
- 体育・心理、その他必要に応じて、PT・OT・ST

支援の内容②

- 健康管理：
 - 医務課に看護師を配置
 - 神奈リハ病院各科と連携

支援の内容③

- 地域支援:

- 見学・研修の受け入れ

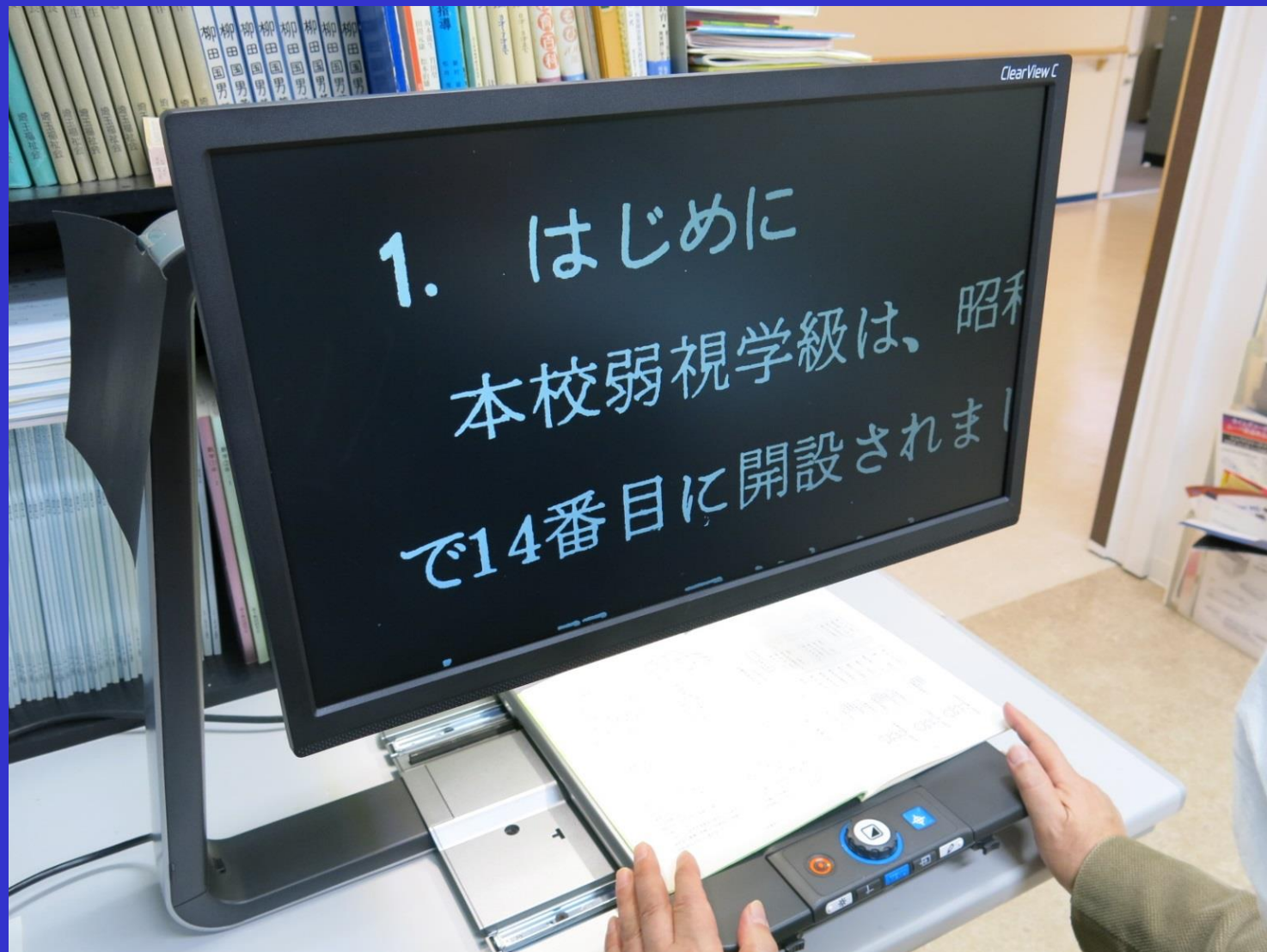
- 講師等の派遣

- 体験会・相談会の開催

- 受託評価

- 障害者スポーツ大会の支援

感覚訓練：CCTV



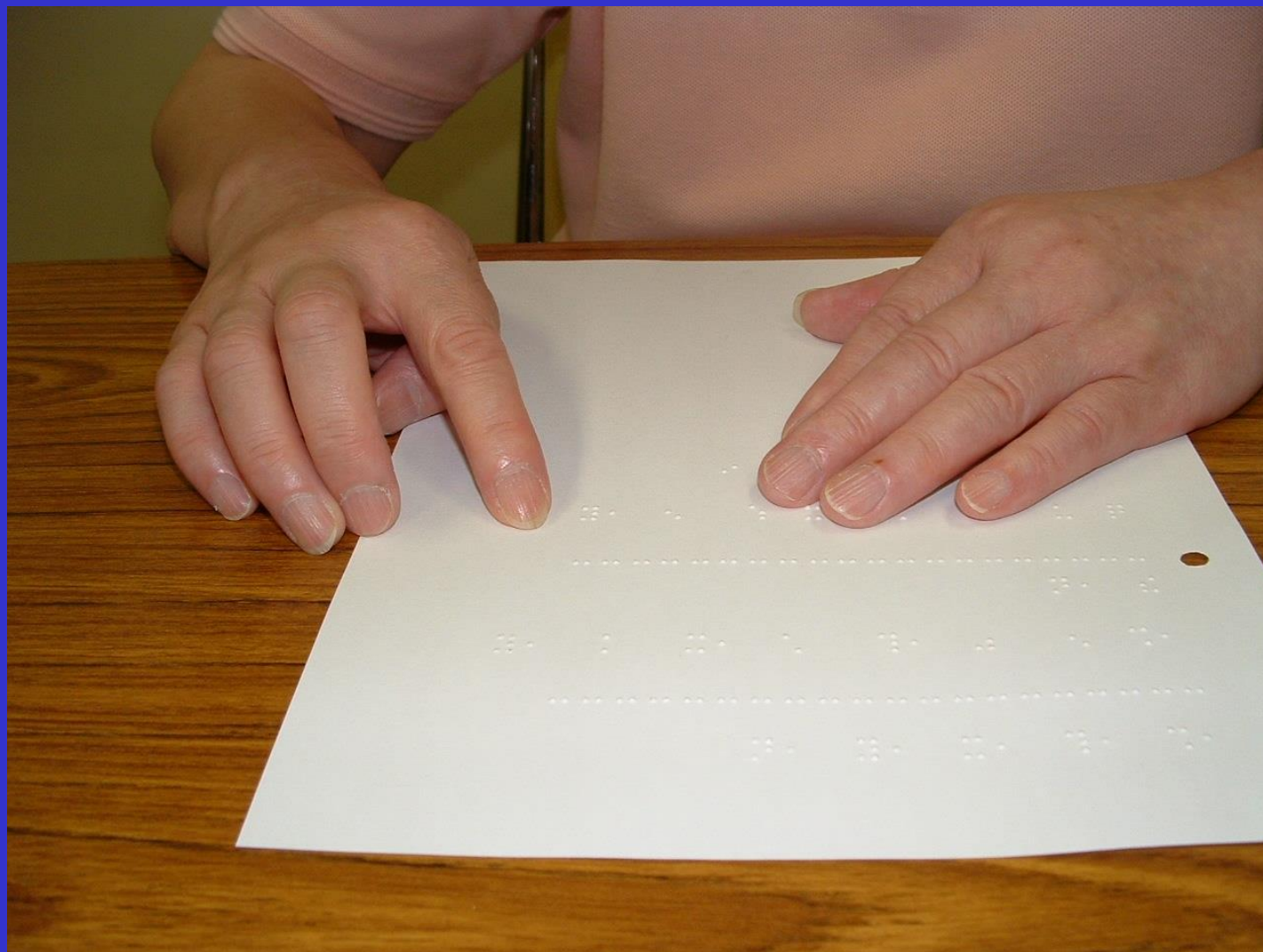
感覚訓練: STT



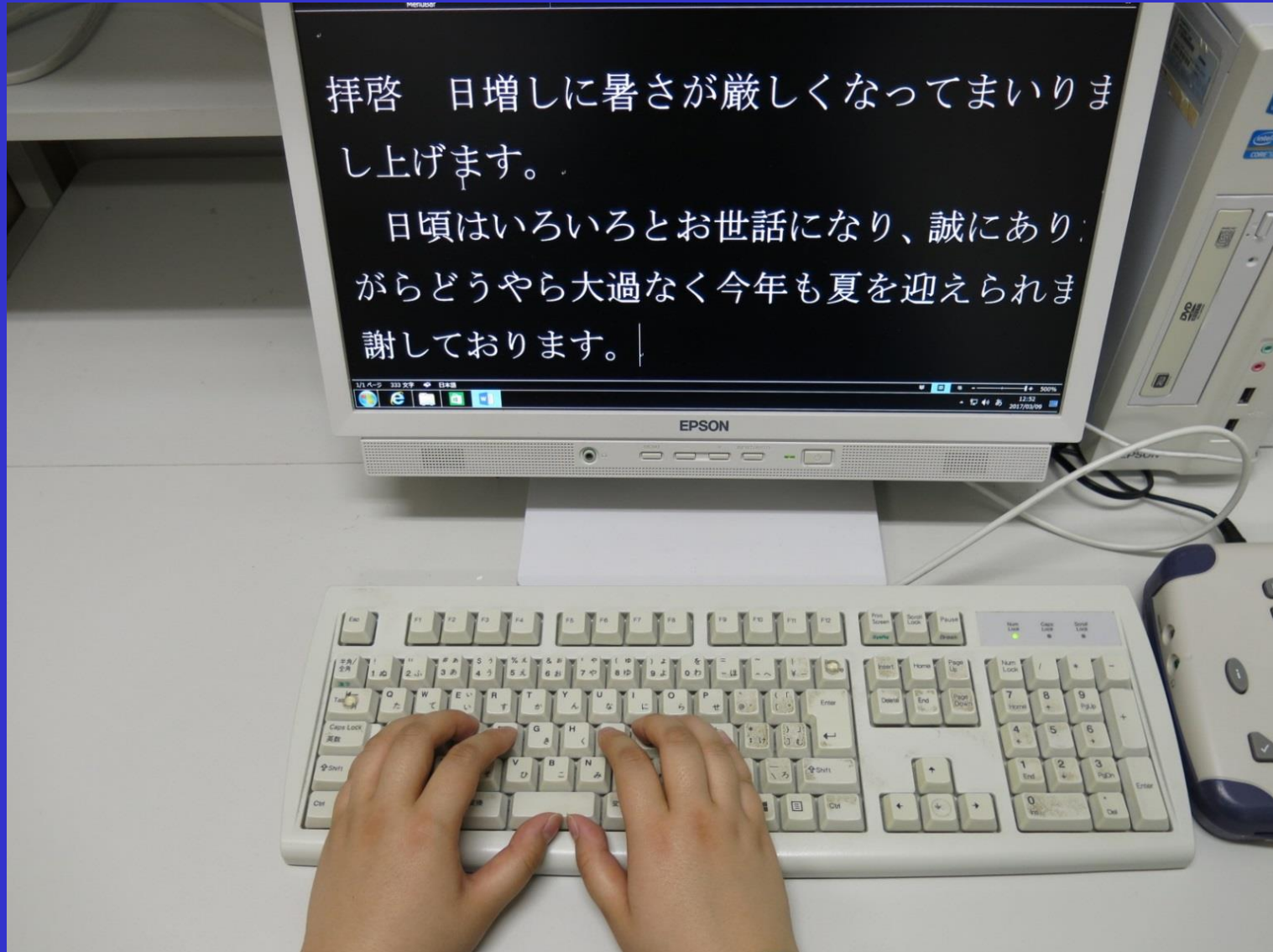
歩行訓練



コミュニケーション訓練：点字読み



コミュニケーション訓練：パソコン



日常生活訓練：調理



日常生活訓練：裁縫



点字指導法のいろいろ

- 読み書きどちらから教えるか？
- どんなサイズの点字を使うか？
- どの文字から教えるか？
- どのように点字を触るか？

読み書きどちらから教えるか？

- 読みから
- 書きから
- 読み書き同時に

どんなサイズの点字を使うか？ (単位:mm)

	縦間	横間	マス間	行間
標準日本 サイズ	2.25	2.00	3.20	6.75
国際 サイズ	2.29	2.29	6.10	10.16
Lサイズ	2.70	2.40	3.84	8.10

どの文字から教えるか？

- 50音順に提示
- 触知容易な文字から提示
京都府立盲学校 永井昌彦(当時)
- 触知容易な文字を行単位に提示
川崎市盲人図書館

どのように点字を触るか？

- 横スライド

国立特殊教育総合研究所

木塚泰弘(当時)

- 積極的な上下運動

名古屋市総合リハビリテーションセンター

原田良實(当時)

点字指導法のまとめ

- 施設・団体によって指導法は異なる
- 共通の指導法はない
- 対象者の状況(目標・年齢・保有視覚・そのほかの障害など)によって適した指導法は異なる

点字読み訓練の目標・評価基準

- なんのために、どんなものを、
点字で読めるようになりたいのか？
- どのくらいの速さで読めれば、
「点字が読める」といえるのか？

いろいろな目標

- 学習手段に
- 読書手段に
- 手紙やメモが読み書きできる程度に
- ラベリング(印付け)に

「点字指導の手引」

- 入門期終了 : 48～192文字／分
- 教科学習 : 193～289文字／分
- 効率的学習 : 290～386文字／分
- 理想的速度 : 387文字以上／分

国立障害者リハビリセンター

- 1:40文字未満/分
- 2:40～59文字/分
- 3:60～89文字/分
- 4:90～119文字/分
- 5:120文字以上/分

七沢自立支援ホーム

- E: 点構成の学習訓練実施
- D: 清音～数字までの触読訓練実施
- C: 10文字以下／分
- B: 11～32文字／分
- A: 33文字以上／分

目標・評価基準のまとめ

- 使用目的や対象者によって
評価基準は異なる
- 学習手段、読書手段だけが
点字習得の目標ではない

訓練プログラム(アセスメント)

- 面接
 - 基本データ(年齢・学歴・視覚状況など)
 - 学習経験
 - 文字言語への興味・関心
- 評価
 - 普通文字の書き
 - 触知覚テスト
 - 学習テスト(国語・算数・理科・社会)

訓練プログラム(初期)

- 初期

- 点構成の学習

- 点辿り

- ※国際サイズ点字で導入

- 清音・長促音・濁音・拗音・数字の学習

- 1行程度の短文読み

訓練プログラム(中期)

- 中期
 - 1ページ程度の短編読み
 - ※点字器での書き導入
 - 記号・アルファベット・特殊音の学習
 - 2～4ページ程度の短編読み

訓練プログラム(終期)

- 終期

- ※日本サイズ点字へ移行
- 5ページ以上の短編読み
- ※点字タイプライターでの書き導入
- 点字雑誌、辞書、英語点字などの紹介

訓練プログラムのまとめ

- 面接・評価はとても重要
- 触読の前に点構成をしっかりと記憶
- 大きいサイズの点字で導入

点字触読習得の阻害要因

- どうして中途視覚障害者は、
点字を読むのが難しいのか？

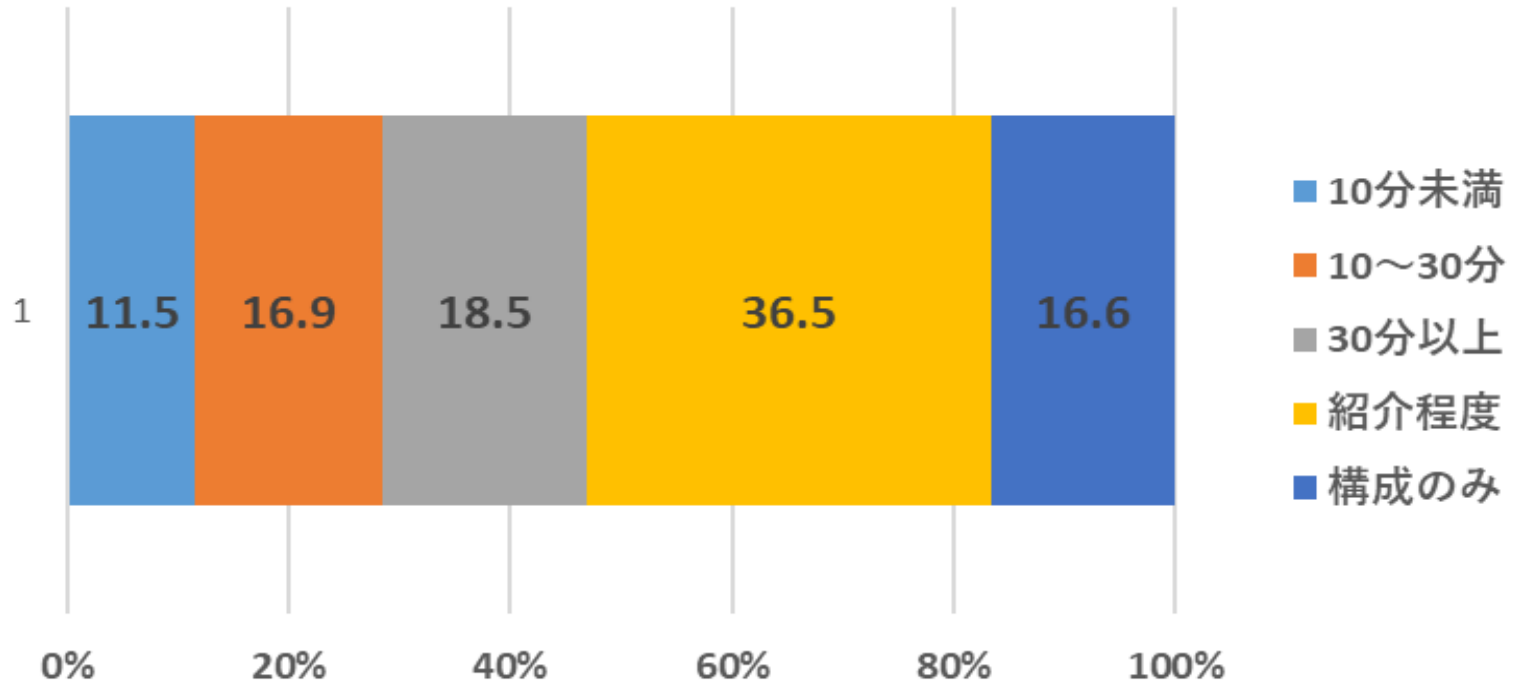
様々な阻害要因

- 加齢
- 学力
- 糖尿病
- 他の障害

七沢自立支援ホームにおける点字 読み訓練の評価基準

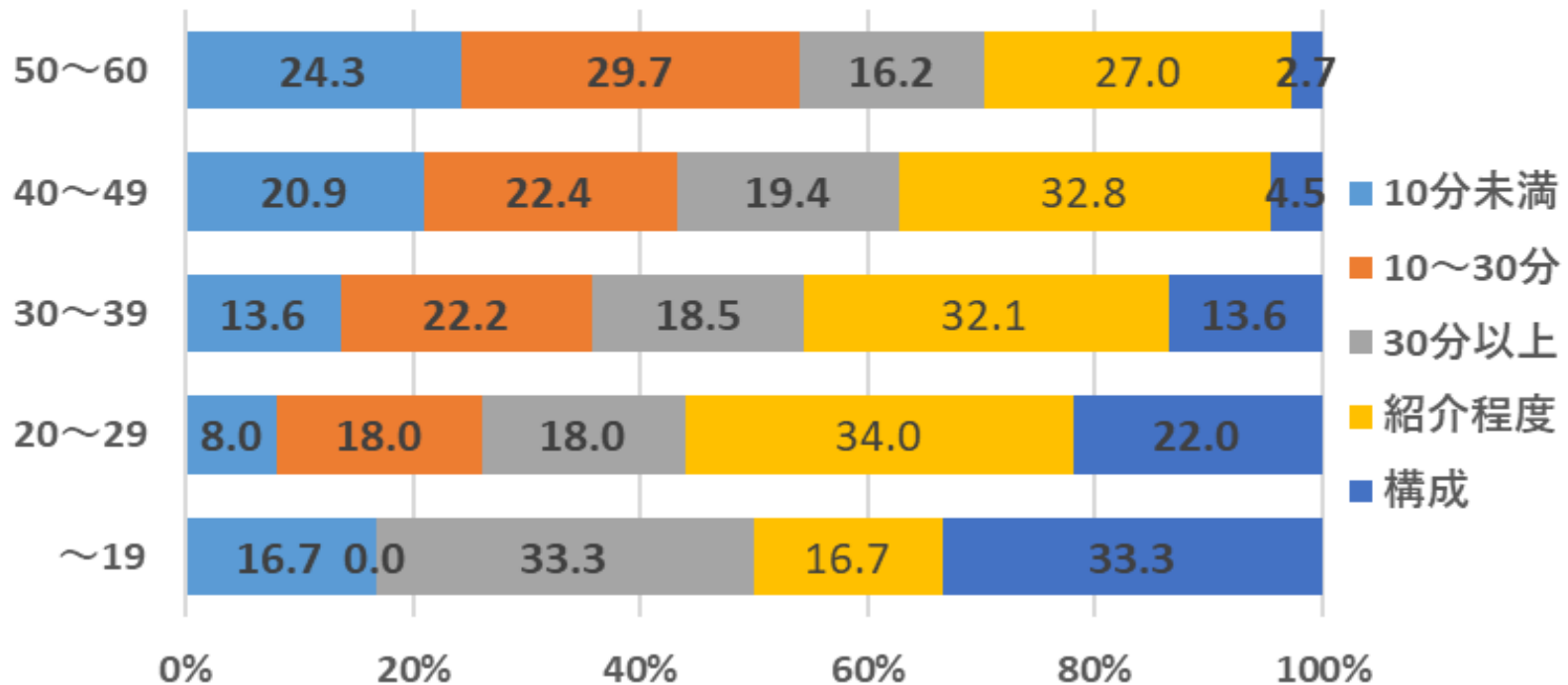
- E 構成のみ：点構成の学習
- D 紹介程度：清音～数時の触読
- C 30分以上：10文字以下／分
- B 10～30分未満：11～32文字／分
- A 10分未満：33文字以上／分

点字読み訓練結果（単位：％）



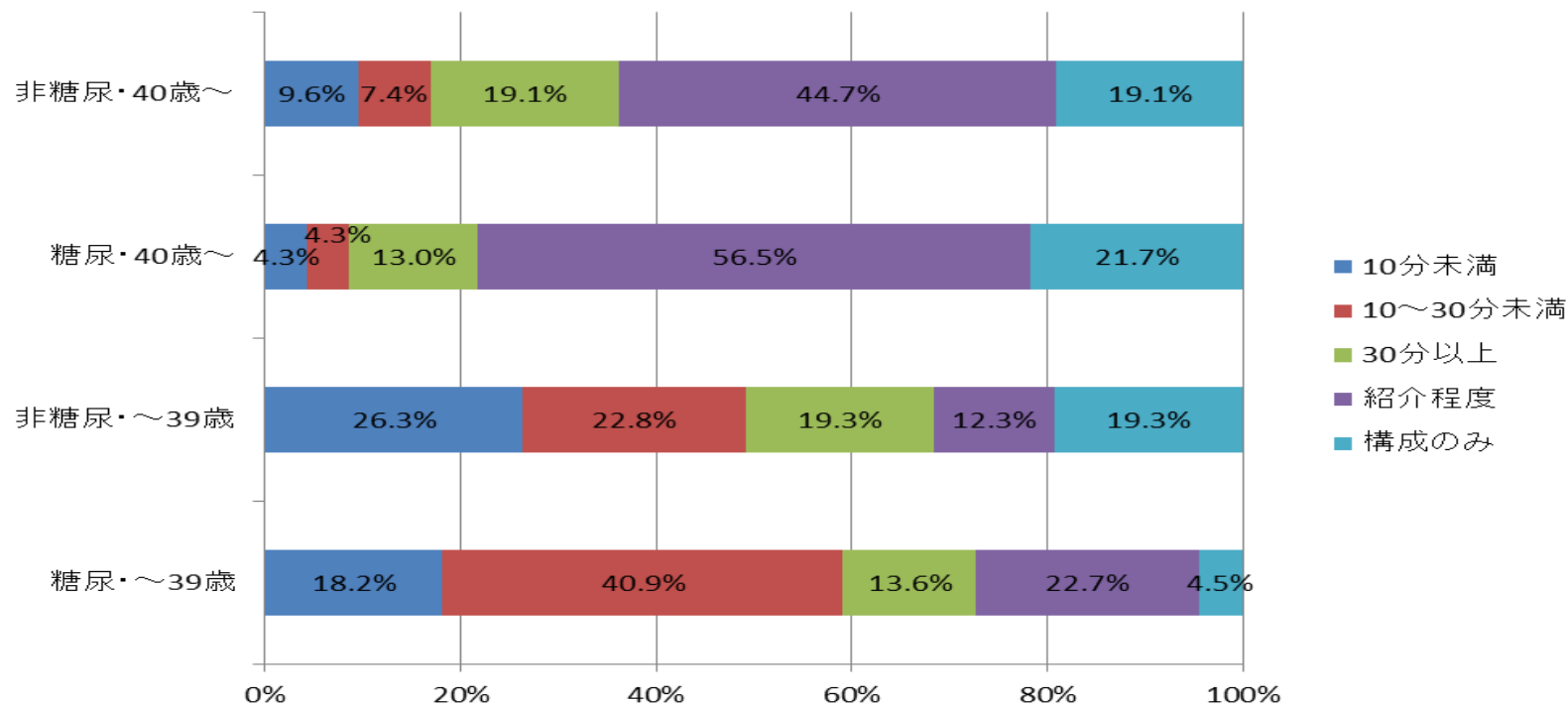
- 対象：1991～2023年度利用者の内433名
- 10分未満に到達した者は、11.5%
- 最も多かったのは、紹介程度の36.5%

学習テスト得点別点字読み結果（単位：％）



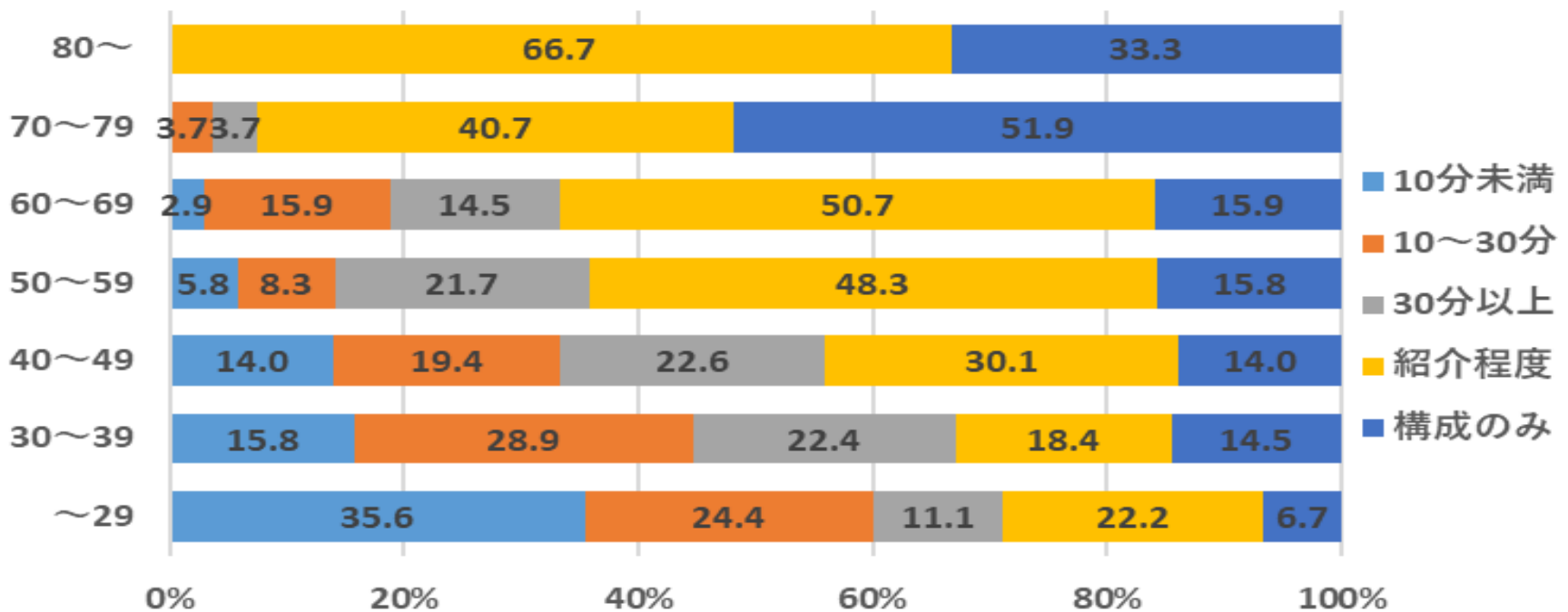
- 対象：1991～2023年度利用者の内247名
- 10分未満に到達した者は、
50～60点の者が24.3%と最も高い
- 40点未満の者も8～20%が10分未満に到達

糖尿病患者の訓練結果(単位:%)



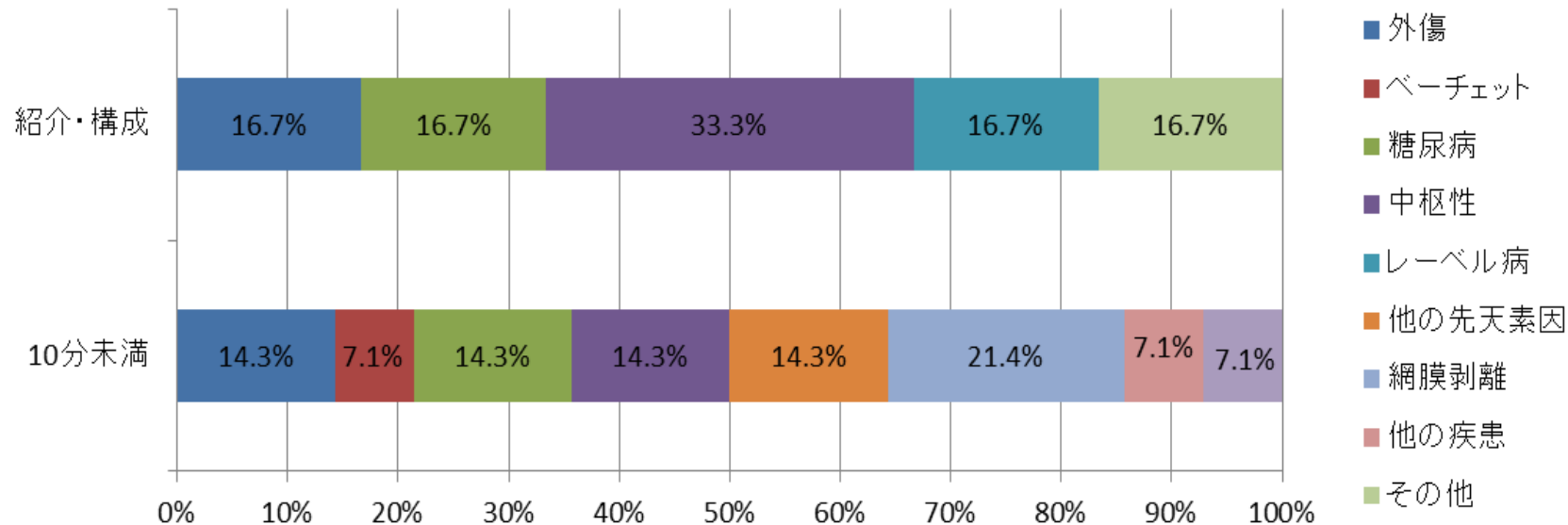
- 対象:1991～2010年度利用者の内219名
- 10分未満に到達した者は、
非糖尿病40～は9.6%、糖尿病～39は18.2%
- 紹介程度や構成のみで終了した者は、
非糖尿病40～は63.8%、糖尿病40～は78.3%

年齢階級別点字読み結果（単位：％）



- 対象：1991～2023年度利用者の内433名
- 10分未満に到達した者は、
 ~29が35.6%、30～39が15.8%、40～49が14.0%
- 紹介程度や構成のみで終了した者は、50歳以上で50%超

30歳未満の障害原因(単位:%)



- 対象:1991~2012年度利用者の内280名
- 30歳未満で点字読速度が10分未満に到達した者と、紹介程度や構成のみで終了した者を比較
- 後者は、中枢性(脳腫瘍や脳血管障害など)の割合が高い
→高次脳機能障害などの影響？

点字触読阻害要因

- 加 齢：記憶力・認知速度などの低下、触知覚の鈍麻
- 学 力：基礎学力、読み書き経験
- 糖尿病：神経症による触知覚鈍麻、記憶力・認知速度などの低下
- その他：高次脳機能障害、精神障害、知的障害、盲ろうなど

中途視覚障害者点字活用事例1

- 50代女性。
- 網膜色素変性症、視覚障害1級。
- 点訳ボランティアから読みの指導を受けていた。
- 喫茶店で読書を楽しめるようになりたい。
- 18か月週2回通所で訓練実施。
- 終期評価：10分未満

中途視覚障害者点字活用事例2

- 70代男性。
- 網膜色素変性症、視覚障害2級。
- 点訳ボランティアから読みの指導を受けていた。
- 公報や当事者団体の会報などを読めるようになりたい。
- 12か月、週2回通所。
- 終期評価：10～30分

中途視覚障害者点字活用事例3

- 30代男性。
- 網膜芽細胞腫・増殖性硝子体網膜症、
視覚障害1級。
- 点字未習。
- 触知覚テスト37点、学習テスト38点。
- 学習手段として読み書きできるようにになりたい。
- 15か月入所で訓練実施。
- 終期評価:10分未満

点訳者に望むこと

- 迅速性
- 正確性
- 個別性